

## 組合に加入して安心して仕事をしよう！

組合員の皆様、周りに組合に加入したいと思っている方はおられますか？是非声をかけてあげてください。J-PARC やもんじゅなどのプロジェクトに関連した仕事などで大変になっているのに、超勤がきちんともらえていない人はいませんか？組合に加入して堂々ともらいましょう。「ハラスメントだ！」などとはちょっと言いにくいけど、なんとなく断れないような雰囲気を作られたりしていませんか？組合に入って一緒に改善させましょう。

## 2009 年春闘に向けた賃金・諸要求アンケートから

昨年、組合員の皆様にご協力頂き、2009 年春闘に向けた賃金・諸要求アンケートを実施致しました。皆様から頂きましたご意見を、少しずつ紹介させていただきます。ご協力頂いた皆様、どうもありがとうございました。

< No4740 のつづき >

### 【統合に関する意見】

- (5) 技術系も研究の下支えをこれまでではしてこれたが、今は紙の仕事ばかりが増えて研究をただ遅らせているように感じる。
- (6) 元サイクルの職員で極端に低く冷遇されていた方への改善は報告されているが、賃金テーブル（経験年数も含めて）実態を明らかにして欲しい。
- (7) 統合から 3 年経って、それなりに落ち着くところに落ち着いた感がある。各拠点・部門で業務内容が違えば仕事のやり方も違うように、旧原研、旧サイクルで違いがあるのは当然。無理に融合する必要はない。やり方におかしな所があれば自然に内部で指摘され、良くなって行く、という感じで徐々に融合していくのではないか。
- (8) 統合時にサイクル機構と原研の給与を比較するとサイクル機構の方が高いということで、給与調整がされた。しかし、私の場合は、おそらく原研の給与よりかなり低い賃金に格付けされているにもかかわらず、同様に低く給与が調整された。おかげで、推測ですが 15 年以上前の所得より現在は低い状態です。やはり同一入社同一学歴であれば多少の差は許されるのかも知れないが、現在の状況は許されないものだと思っています。
- (9) 業務を精査し、必要な仕事に人を配置する。統合は名ばかりで仕事が統合されていないと思う。
- (10) 一般会計を主財源としていた原研と特会をそれとしていたサイクルでは、予算に対する考え方が根本的に違う。  
少ない予算で、自らの知識や技術を生かして業務を進める原研方式の方が、自分自身（技術系）には向いており、同様に感じている方も多いのではないか。  
予算を頼りに業者に発注して事業を進めるサイクル方式は技術系事務職というような方に向いているのだろう。それにしても、予算に対するキメが粗すぎる。
- (11) 統合してどのように合理化が進んだのかをある時期になったらきちんと評価すべき。

- (12) 理念だけ高く現場の“実”が伴っていない。  
小さな単位での効率化が進められることで全体としての非効率化に拍車がかかっている。それを全体で見る経営判断がなされていない。
- (13) 事務処理を一般職員に回しすぎる。業連が多すぎる。
- (14) 紙上での仕事（？）が多すぎる。本質的でない。
- (15) 旧原研と JNC ではいまだに予算が違い、旧原研は予算があまりないが、JNC は多くの予算があり不公平である。
- (16) 職場では、統合によるメリットがなにも発揮されていない、と感ずる。原研時代は現場の事務方がしっかりしていたのに、統合されてからは、事務的なことを相談する窓口がわからなくなり、実に困惑している。
- (17) 社会情勢からすると現在は不可能と考えるが将来に向け再度原研、サイクルへと分離できる様に主張していくべきと考える。

### 【機構の運営全般に関する意見】

- (1) 研究拠点と研究部門のマトリックス組織に問題が山積していることは周知の事実である。施設運営・維持のための予算、安全対策、業績発信...全て研究部門が密接に関わっている。マトリックスで分けようとする程、業務分担などが複雑になり、非効率である。更に、J-PARC の本格運用とともに KEK 側の利用者も増えて、原科研はますます複雑な施設運営や安全対策、福利厚生に対応していかなければならないはず。中期計画を境にマトリックス組織を抜本的に考え直す時期に来ているのではないだろうか。
- (2) 職場により、人員バランスがとれていない。（少ない人数でやっているところ（旧原研職場）と仕事内容に比べ、人が余っているところ（旧サイクル職場）がある。  
特に業務請負の人員は、顕著である。
- (3) 南食堂について、みなさん不満です。  
まずい、量が（特に丼物）少なくなった。現在の業者になる前からみると、利用者は 4 割くらい減少していると思われる。その理由を調査して改善してほしいです。  
また、食堂委員会があるようですが、名前だけで機能していないと思います。
- (4) 機構として、品質とリスクアセスメントに関しては、頑張っ取り組んでいるのは理解できるが、具体的な会社の目標は何なのかよくわからない。
- (5) 些末な官僚主義がいろいろな面に顔を出している。研究機らしい、自由度のあるのびのびした職場環境、自主的・自律的運営に戻って欲しい。  
予算と人員の減少で、組織として機能麻痺しつつある。大きな問題が発生しないと良いが。
- (6) 事務関係に関する真の意味での業務効率化が全然進んでいない。  
GROVIA やリシテアの導入で、調達課や給与課の業務は確かに効率化されたが、各研究現場の事務仕事はむしろ増加した。効率化とは、「如何に現場の事務仕事を減らし、研究に専念して成果を挙げてもらおうか」という視点で行われるべきで、現在はその全く逆の視点で行われている。  
最近業連の多用により、今までなら電話一本で「OK です」で済んでいたことが、業連で回答するよう要求されるようになった。民間企業では考えられないような業務非効率化が進んでいる。  
安全関係については、規定等の整備により少しずつ現場で何をしたらいいのかが判りやすくなってきたが、もっとシステムを整備して効率化すべきである。 <次号につづく>

## 12月の活動記録

12月1日	(月)	拡大窓口	地域調整手当支給割合の改定
12月1日	(月)	中央執行委員会	
12月2日	(火)	団体交渉	「12月期一時金」仮受結 「地域調整手当支給割合の改定」仮受結
12月2日	(火)	拡大窓口	支給式の提案
12月3日	(水)	あゆみ	No.4737(60-12)
12月4日	(木)	特法連幹事会	岩井委員長参加
12月4日	(木)	拡大窓口	「12月期末手当」協定 「地域調整手当改定」協定
12月8日	(月)	第429回中央委員会	
12月8日	(月)	中央執行委員会	
12月9日	(火)	窓口	放射線業務手当について 物品販売の所内回覧の件 最近の在職死亡の件
12月10日	(水)	あゆみ	No.4738(60-13)
12月10日	(水)	科労協権利福祉小委員会	欠席
12月12日	(金)	科労協科学技術小委員会	平出書記長、高松科労協副議長参加
12月15日	(月)	中央執行委員会	
12月16日	(火)	科労協単代	欠席
12月18日	(木)	窓口	人事評価制度議事確認 就業規定の改定について 年金申請の手違いについて
12月19日	(金)	科労協賃金対策小委員会	欠席
12月24日	(水)	春闘アンケート仮集約	

## 科労協2009年春闘討論会に参加してみませんか！

科学技術産業労働組合協議会（科労協）主催で2月21日（土）に東京で2009年春闘討論会が開催されます。この討論会での議論をもとに、科労協に所属する各法人（日本原子力研究開発機構、理化学研究所、宇宙航空研究開発機構、科学技術振興機構）に対しての共同要求書を作り、春闘に向けた運動を行っていきます。また、文科省交渉に関する議論も行われます。**参加のための交通費は組合から出ます**ので、参加してみたいという組合員の方がおられましたら、組合事務所、あるいは近くの執行委員に、是非、声をおかけ下さい。

開催場所、開催時刻など、詳細が決まりましたら、あゆみで再びお知らせ致します。

## 組合員からの投稿文書

### 「ふげん」で内部被ばく発生。 機構の安全管理はどうなっているのか。

1月9日付けの敦賀本部週報によると、「放射性固体廃棄物処理系タンク内での下地調整作業に従事した作業員が、作業終了後の退所時の体内放射能測定において、（中略）0.44mSvを確認しました。」とあります。有意な内部被ばくが発生したと言うことは、そのレベルにかかわらず重大なことです。いったい、機構の安全管理はどうなっているのか、大いに疑問です。

機構内の一部では、1月9日付けで機構が保安院及び文部科学省に説明した資料が回覧されていますが、全職員に周知されてはいません。

上記の資料を読むと、いくつかの問題が浮かび上がります。業者に請負わせ、内部被ばくが想定される作業のため、全面マスクを装着していたにもかかわらず、なぜ、体内放射能測定で検出されるほどの内部被ばくが生じたのか。作業中に身体汚染等が発生し、内部被ばくが疑われてしかるべきなのに、なぜ、身体汚染発生時（しかも、2回も発生している）から1ヶ月以上経過した退所時の検査まで機構は何も知らなかったのか。このあたりについては、上記資料にも若干触れられていますが、その説明は疑問を感じる内容です。

このような内部被ばくのおそれのある作業に対して、機構側の管理体制はどうであったのか、職員による現場の立会いはしていたのか、放射線管理部門の関与はどうであったのか、などについては上記資料には全く記載されておらず、一体どうなっているのでしょうか。すべて業者任せにしていたのだとすれば問題です。

今も、原因究明やその他の検討がされているのかもしれませんが、まずは、上記の資料を全職員に配布して情報共有を図るとともに、機構の安全管理に問題はなかったのかにつて、真剣に議論すべきではないでしょうか。

—組合員より

この、ふげんで起きた内部被ばくの問題に関して、一部の職場ですでに情報は回っているようです。また、このような投稿があったため、今後、労組では、機構に対して詳細な説明を求めていきます。